

委員会企画パネルディスカッション

⌚ 2025年7月12日(土) 10:10～11:40 皿 第4会場（男女共同参画センター 1F 多目的ホール）

委員会企画パネルディスカッション6（III-CPD6）

「いのちの授業」活動報告

座長：内田 敬子（東京医科大学 細胞生理学分野）

座長：山澤 弘州（北海道大学大学院医学研究院 小児科）

[III-CPD6-2] 小児循環器医と連携し、いのちを学ぶー教員の立場から

○齋藤 久美 (国立大学法人 筑波大学附属小学校)

キーワード：小学校、いのちの授業、教育と医療の連携

【はじめに】子供のいじめや自殺、虐待などいのちに関わる問題が深刻さを増す中、小学生を対象に、小児循環器医等と連携した「いのちの授業」に取り組んでいる。小児の脳死下心臓器移植の問題をテーマに設定し、学級活動、総合的な学習の時間、理科、道徳の多教科が連携し、小児循環器医にゲストティーチャーとして参加して頂くパッケージ型の授業を実践している。【方法】日本の小児の心臓移植のドナーは欧米に比べて非常に少なく、その背景には脳死についての考えや臓器提供の意思表示のルールの違いなどがあると考えられる。そこで「日本は高い医療技術がありながら、身体的危険を冒して海外渡航し、心臓移植手術を受けざるをえない子が多い」という現状を授業のテーマとした。ねらいは臓器提供の意思決定を促すことではなく、現時点で答えが見つからない問題に向き合い、自分なりの考えを形成するなど、自他のいのちを尊重し、考え続ける態度を育てることである。レシピエントの少女が海外渡航移植を受けた理由を予想させ、ゲストティーチャーの医師から、児童の予想や日本と諸外国の移植事情について指導して頂いた。更に投書や動画などを活用し、ドナー側の思いについても学びを深めた。授業と並行して日本臓器移植ネットワークのキッズサイトを活用した調べ学習に取り組み、脳死下臓器移植の知識を深めると共に、家族や友達へのインタビューも行い、自分の考えを形成した。児童は、問題を知り考えること、家族と話し合うこと、意思表示することの大切さ、健康や命の大切さなどについて深く考え、記述し、発言していた。【結果と考察】多教科や小児循環器医等が連携した「いのちの授業」は、児童の主體的な授業参加や深い思考、家族との意見交換などにつながった。今後の継続に向け、活動の工夫を図ると共に、小児循環器医や他教科他領域との連携も深めたい。